すたあとらいん

第127号　社会福祉法人 青い鳥会
2026.07.15

[HP] https://www.hikogaku.com　[E-mail] aoitori@hikogaku.com

特集

人が集まり、人が育つ場所へ
ー人材確保と人材育成ー



目　次

・特集　人が集まり、人が育つ場所へ
ー人材確保と人材育成ー …… P2 ～ 3
・事業所ピックアップ …… P4
・インフォメーション …… P5
・事業報告 …… P6 ～ 9
・HP紹介　編集後記 …… P10

特集

人が集まり、人が育つ職場へ

ー人材確保と人材育成ー

SNSの活用



近年、SNSの利用率は全年齢層で増加しており、特に13歳から40代では利用率が90％を超えています。こうした背景の中、就職活動においても情報収集の手段としてHPやSNSを活用する人が75％にのぼっています。

Instagramでは、学生が知りたい情報である「どのような職員が働いているのか」「どんな雰囲気の職場なのか」を具体的にイメージできるように発信内容を工夫しています。

ブログでは主に行事等の利用者の様子を載せ、施設の雰囲気が分かるように心掛けています。

HPでは採用ページにも力を入れ、先輩職員インタビューや1日の流れ等、求職者が知りたい情報を分かりやすく掲載しています。

選ばれる職場へ

リクルートパンフレットの作成



法人パンフレットとは別にリクルート用のパンフレットを作成しました。

仕事内容や1日の流れはもちろん、キャリアアップについて、福利厚生、職員インタビュー等、求職者が知りたい情報がつまったパンフレットとなっています。今後はパンフレットを持参して大学訪問も視野に入れています。

就職フェアへの参加

就職フェアへも積極的に参加しています。新たに採用ブースの装飾品も作成し、訴求力を強化しました。



充実の福利厚生







青い鳥会では、職員一人ひとりが安心して長く働ける職場づくりを大切にしています。

育児と仕事を両立しやすい支援制度をはじめ、奨学金代理返還制度や、万が一の入院に備えたハイパーメディカル保険への加入等、福利厚生の充実に力を入れています。

また、初任給の引き上げを行い、安心して福祉の仕事をスタートできる環境を整えています。

現在、生産年齢人口の減少が続き、あらゆる分野で人材不足が深刻化しています。滋賀県においても例外ではなく、福祉の現場では特に採用の難しさが顕著となっています。福祉施設の関係者が集まると「人は足りているか」「どうやって確保しているか」といった話題が必ず挙がるほど、人材確保は大きな課題となっています。

こうした状況の中、青い鳥会では数年前から人材確保に向けた取り組みを進めてきました。採用面では、採用イベントブースでのブース装飾を工夫し、より多くの方に興味を持っていただけるように努めています。また、入職後の姿をイメージしやすいリクルートパンフレットの作成、複数の求人媒体を活用した幅広い層へのアプローチ、さらに奨学金代理返還制度の導入等、求職者にとって魅力ある環境づくりを進めています。

一方、定着・離職防止にむけては、子育て・介護世代を支える同僚サポート手当、介護機器を活用した「抱え上げない介護」の推進、法人負担による医療保険加入、職員が自身のキャリア形成にあった働き方を選べる新人事制度など、働き続けやすい職場づくりにも力を入れています。それでもなお人材確保は厳しい状況が続いており、今年度は今後必要性が高まる外国人労働者の採用についても情報収集を進めています。利用者の皆様がその人らしい生活を送れる様、これからも職員の確保に努めて参ります。

彦根学園施設長　重森健

育てる力を支える研修制度

青い鳥会では、人材育成を大切にし、職員一人ひとりが成長できる環境づくりに力を入れています。

その柱となるのが、「新任研修」「月１回の職員研修」「スペシャルラーニング」の３つの研修制度です。

新任研修では、先輩職員が講師となり、記録の重要性やチームワークなど、現場で大切にしている基本を丁寧に伝えています。実践的な内容を通して、不安を安心へと変え、職員としての第一歩を支えています。

月に１回実施している職員研修では、専門的な知識や支援技術を学ぶだけでなく、時には外部講師を招き、新しい視点や考え方に触れる機会も設けています。学びを共有し合うことで、職員同士のつながりやチーム力の向上にもつながっています。



育てる力

障がい福祉に特化したオンライン研修サービス
Special Learning
スペシャルラーニング

さらに、オンライン学習ツール「スペシャルラーニング」では、１回約３分の動画をいつでも視聴でき、隙間時間を活用しながら学ぶことができます。自己研鑽の機会として、多くの職員が日々の学びに活用しています。

人事評価制度

職員一人ひとりの成長を支える制度づくりに取り組んでいます。今年度、制度改革行い、階層ごとに法人が職員へ期待する役割を明確化し、キャリアアップや能力開発につながる仕組みを整えました。期待される役割と現在の姿とのギャップを明確な基準で評価し、その結果を賃金制度と連動させることで、努力や成果が適切に評価される環境を目指しています。また、管理職を目指す人、専門性を高めたい人など、それぞれのキャリアの意向に応じた働き方を実現できる制度を構築し、安心して成長し続けられる職場づくりを進めています。

事業所 PICK UP

彦根学園



あじひま農園を開催しました。2024年から毎年行っている行事です。以前までひまわり寮のみの開催でしたが、昨年度からあじさい寮とひまわり寮合同で行い、さらににぎわいながら一緒に楽しんでいます。あじひま農園は、「外出が難しい利用者も皆で一緒に果物狩りが出来たらいいな」という考えから生まれました。お菓子や果物を上から紐で吊るし、利用者が自ら好きなお菓子や果物を選んで取って楽しむという行事になっています。例えば、苺やバナナ、利用者が良く好まれるどら焼きやドーナツなどたくさんのおやつを用意し、上から果物が実っているように吊るしているので利用者全員が果物狩りを楽しめるようになっています。写真は今年開催した様子です。みなさん取るのも食べるのも楽しんでおられました。

ひまわり寮　有馬志乃里

せいふう



こんにちは、せいふうです！令和8年度のせいふうは利用者の皆様に最も快適に過ごしていただけるように、レイアウトの変更をしました。これまで全体活動をする場所として使用していた部屋を、1班の利用者と2班の一部の利用者の過ごしの部屋としてリニューアルしました。広々とした空間で、医療的なケアが前よりもっとしやすくなり、利用者にとっても快適な日中の過ごしの場所になったのではないでしょうか。今後も利用者にとって、安心、安全で快適な空間づくりを考えながら、より多くの利用者をお迎えできるように職員一同頑張ってまいります！

せいふう所長　小川真也

愛荘町川原事業所



川原事業所（すら～ぶ）では、利用者の主体性や日常生活力の向上を目的に、さまざまな活動に取り組んでいます。月1回の茶話会では、利用者が喫茶店の店員役となり、お菓子や飲み物の注文・提供を行っています。言葉でのコミュニケーションが難しい方にはPECSを活用し、自分の意思を伝える機会としています。また、グループ外出では年1回以上の外食支援を実施し、地域との関わりを大切にしています。リサイクル活動では、段ボールや古新聞を定期的に持ち込み、社会参加の一環としています。さらに、ボッチャは他事業所（せいふう）との交流試合を目標に月2回の練習を重ね、今年度の実現を目指しています。今後も地域とのつながりを大切にしながら、活動の充実を図っていきます。



川原事業所所長　堀内友博

ー お知らせ ー

インフォメーション

彦根学園　寮行事



かしのき寮・めんたいパークびわ湖

令和７年９月17日めんたいパークびわ湖に行っています。めんたいこのできる工程を工場見学しながら、試食のめんたいこ食べています。塩味が強かったのが、利用者は、ちょっと嫌な表情をされていたので、給茶機から冷たいお茶を頂き、ほっとされていました。めんたいパークからピエリ守山に移動する道中、天気も良かったので、琵琶湖がブルーに輝いていました。久々の外出だったので、学園までの車中では、疲れたようで、利用者全員居眠りされていました。

あじさい寮　いちご狩り

令和８年２月に東近江市の方へ、あじさい寮でいちご狩り外出に行ってきました。職員と一緒にいちごを狩り、大きく赤くなったいちごを美味しそうに、頬張る姿がたくさん見られていました。いちごはたくさんの種類があり、どれも美味しくてどの種類を食べようかな…と時間中幸せな悩み事を利用者と一緒にしていました。たくさん美味しいいちごを食べ、参加した利用者・職員ともに笑顔の多い時間を過ごす事が出来ました。



【彦根学園に4月より入所された利用者さんの紹介】



彦根学園　あじさい寮　田中美沙さん

短期利用で彦根学園を利用され、４月よりあじさい寮に入所されました。音楽を聴くことが好きで、穏やかな時間を楽しまれています。また、人と関わることが大好きで、他の利用者や職員にも自ら笑顔で近づかれる姿がとても印象的です。日々の生活の中では、職員と一緒にお手伝いをされたり、他の利用者と手を繋いで歩行に取り組まれたりと、毎日を意欲的に過ごされています。まだまだ慣れない事も多いですが、これからも彦根学園での生活を楽しみながら毎日健康に過ごしていきたいです。

新任職員の紹介

①名前　②所属寮　③自分を動物に例えるなら
④休日の過ごし方　⑤一言メッセージ

①日田　典孝(ひだ　のりゆき)
②彦根学園　くすのき寮
③いのしし
理由:一度これと決めたら、まっすぐに突き進むタイプだと奥さんに言われました。



④(休みが合えば)奥さんと外出します。人混みは苦手なので、自然を感じられるところに出かけることが多いです。
⑤早く皆さんに名前と声を覚えてもらえるように頑張りますので、よろしくお願いします。

①森居　淳(もりい　あつし)
②彦根学園　ひのき寮
③ペンギン
理由:昔、歩き方がペンギンみたいと言われたことがあるため・・・あとはのんびりしているイメージがある為、そこも似ているかなと思います。



④趣味でボウリングをしているので、よくビバシティや長浜、近江八幡のボウリング場に行って投げています。
⑤まだまだ勉強中です。皆様の生活を支えていけます様に頑張りますのでどうかよろしくお願いいたします！

令和７年度事業報告

1.法人全体・各事業所共有事項について

○理事会・評議員会の開催と主な議題について

６月２日	第１回理事会	令和６年度事業報告及び決算報告　他
６月17日	定時評議員会	令和６年度決算書類の承認　他
	第２回理事会	理事長の選任及び業務執行理事の選任
９月26日	第３回理事会	定款の変更及び理事の解任、候補者の推薦　他
10月５日	第２回評議員会	定款の変更及び理事の解任と選任　他
12月18日	第４回理事会	彦根学園空調・給湯設備等改修工事施工業者入札及び工事請負契約　他
２月５日	第５回理事会	就業規則等に関する規程の一部変更
３月10日	第６回理事会	令和７年度補正予算、令和８年度事業計画、当初予算　他

○人事制度改革について

Visionの実現に向けて「法人が期待する役割を果たし成果を生み出す職員に報いる制度」「多様なキャリア意向を持つ職員が主体的にキャリアを選択し、適所で長く働ける制度」をコンセプトとした人事制度改革を行い、新たに等級制度、雇用区分、人事評価制度を整備した。今後、この人事制度を定着させることで、職員の労働意欲の向上、人材育成、離職防止に繋げていきたい。

○ICTの推進について

ICT,DX化の推進に向けて、ICT,DX展示会への職員派遣やデモ機の試用など、情報収集を行った。彦根学園では、令和６年度に導入した、眠りスキャン、眠りスキャンeye、インカムを有効活用し、夜勤者の孤立感の改善や訪室回数の減少など、業務改善に繋がっている。地域支援センターたいせいでは、記録ソフトとタブレットを導入し、記録時間の削減を図った。今後もICT各機能の活用を積極的に進めていく。

○虐待防止、権利擁護の取組について

利用者の権利擁護、虐待防止の取り組みを推進し、職員の利用者支援における行動指針として、支援向上委員会を中心に「職員心得」を作成し、職員全体への周知を行った。この「職員心得」に基づき、利用者の生きがいと尊厳が守られ、安心した暮らしが送れる環境の提供を目指していく。

○利用者の社会参加について

滋賀県で開催された「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」ウェルカムフェスタに利用者、職員が参加し、県内の他団体と共にイベントを盛り上げた。彦根学園では一泊旅行を再開、高宮町宿場祭りなどの地域イベントへの参加等、積極的に社会参加の機会を提供できた。

○その他

障害理解促進・啓発を目的として、彦根学園祭（10/５）川原事業所秋祭り（11/３）を開催。
健康診断受診率100％・ストレスチェック受診率90％超を実現し、健康づくり優良事業所表彰を受賞。
彦根学園の敷地内に遊歩道を整備。彦根学園・せいふうにおいて、空調・給湯設備等改修工事を実施。

2． 各事業所において

【彦根学園】 障害者支援施設　生活介護・施設入所（定員100名）・短期入所（定員10名）

利用者１名に対して、地域移行等意向確認マニュアルを活用しながら、地域移行に向けた意向の確認、同行支援等を行い、地域移行の取り組みを行った。結果、施設からグループホームへの地域移行が実現した。

【せいふう】 生活介護（定員20名）・短期入所（２名）・日中一時支援

湖東圏域の重症心身障害者通園施設として、看護職員の複数配置、適切な療育、入浴等を継続するとともに、リフター等を使用したノーリフトケアを徹底した。療育活動を中心に、利用者の意思決定の場を設け、利用者及び家族の思いに寄り添った支援を実施した。

愛荘町川原事業所

【すら～ぶ】 生活介護（定員20名）

【か ～ む】 日中一時支援

すら～ぶにおいて、視覚支援等、障害特性に応じた支援を行い、利用者の日中活動の充実を図った。か～むにおいては令和７年度より日中一時支援として事業を運営し、主に児童を中心に、一人ひとりの個性と発達に応じた支援提供を行った。

地域支援センターたいせい

【グループホームたちばな】 共同生活援助（定員15名）・短期入所（空床型）

【相談支援事業所てんしん】 委託相談・一般相談・計画相談・地域移行・地域定着

たちばなでは施設からの地域移行の取り組みを実施し、体験利用等を行いながら、新規利用者の受入れを行った。てんしんでは、年間1,080件の計画相談に取り組み、件数を増やした。両事業所とも記録ソフトの変更、タブレットの導入し、業務効率化を推進した。

決算報告資料

法人単位資金収支計算書

（自）令和 7年 4月 1日（至）令和 8年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	1,035,244,000	1,033,108,343	2,135,657
		その他の収入		3,879,494	△3,879,494
		経常経費寄附金収入	2,988,000	2,911,747	76,253
		受取利息配当金収入	1,222,000	1,235,993	△13,993
		その他の収入	1,626,000	1,706,884	△80,884
		事業活動収入計(1)	1,041,080,000	1,042,842,461	△1,762,461
	支出	人件費支出	665,802,000	672,718,273	△6,916,273
		事業費支出	131,848,000	129,129,111	2,718,889
		事務費支出	65,197,000	64,737,360	459,640
		その他の支出		565,954	△565,954
		その他の支出	969,000	967,800	1,200
		事業活動支出計(2)	863,816,000	868,118,498	△4,302,498
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		177,264,000	174,723,963	2,540,037
施設整備等による収支	収入	その他の施設整備等による収入		525,432	△525,432
		施設整備等収入計(4)		525,432	△525,432
	支出	固定資産取得支出	122,270,000	122,269,876	124
		ファイナンス・リース債務の返済支出	5,594,000	5,592,840	1,160
		施設整備等支出計(5)	127,864,000	127,862,716	1,284
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△127,864,000	△127,337,284	△526,716
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	13,122,000	18,586,204	△5,464,204
		その他の活動収入計(7)	13,122,000	18,586,204	△5,464,204
	支出	積立資産支出	7,283,000	7,260,240	22,760
		その他の活動支出計(8)	7,283,000	7,260,240	22,760
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		5,839,000	11,325,964	△5,486,964
予備費支出(10)				—	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			55,239,000	58,712,643	△3,473,643
前期末支払資金残高(12)			551,464,000	551,463,864	136
当期末支払資金残高(11)+(12)			606,703,000	610,176,507	△3,473,507

法人単位事業活動計算書

（自）令和 7年 4月 1日（至）令和 8年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)−(B)
サービス活動増減の部	収益	障害福祉サービス等事業収益	1,033,108,343	1,023,786,977	9,321,366
		経常経費寄附金収益	2,911,747	1,998,000	913,747
		その他の収益	4,445,448	247,409	4,198,039
		サービス活動収益計(1)	1,040,465,538	1,026,032,386	14,433,152
	費用	人件費	673,946,195	679,328,936	△5,382,741
		事業費	129,129,111	134,690,630	△5,561,519
		事務費	64,737,360	60,758,719	3,978,641
		減価償却費	123,803,712	111,372,488	12,431,224
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△30,377,557	△25,846,040	△4,531,517
		その他の費用	565,954	247,409	318,545
		サービス活動費用計(2)	961,804,775	960,552,142	1,252,633
	サービス活動増減差額(3)=(1)−(2)		78,660,763	65,480,244	13,180,519
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	1,235,993	426,568	809,425
		その他のサービス活動外収益	1,706,884	4,409,035	△2,702,151
		サービス活動外収益計(4)	2,942,877	4,835,603	△1,892,726
	費用	その他のサービス活動外費用	967,800	827,900	139,900
		サービス活動外費用計(5)	967,800	827,900	139,900
	サービス活動外増減差額(6)=(4)−(5)		1,975,077	4,007,703	△2,032,626
経常増減差額(7)=(3)+(6)			80,635,840	69,487,947	11,147,893
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益		112,528,755	△112,528,755
		その他の特別収益		305,704	△305,704
		特別収益計(8)		112,834,459	△112,834,459
	費用	固定資産売却損・処分損	12		12
		国庫補助金等特別積立金積立額		112,528,755	△112,528,755
		特別費用計(9)	12	112,528,755	△112,528,743
	特別増減差額(10)=(8)−(9)		△12	305,704	△305,716
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			80,635,828	69,793,651	10,842,177
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		1,140,915,039	1,079,621,388	61,293,651
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		1,221,550,867	1,149,415,039	72,135,828
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)		13,121,932	41,500,000	△28,378,068
	その他の積立金積立額(16)			50,000,000	△50,000,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)−(16)		1,234,672,799	1,140,915,039	93,757,760

法人単位貸借対照表

令和 8年 3月31日現在

（単位：円）

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	681,985,654	680,383,664	1,601,990	流動負債	109,025,987	167,270,640	△58,244,653
現金預金	515,128,832	512,849,870	2,278,962	事業未払金	71,307,147	128,433,400	△57,126,253
現金	413,615,105	411,349,870	2,265,235	その他の未払金	502,000	486,400	15,600
定期預金	101,513,727	101,500,000	13,727	1年以内返済予定リース債務	5,592,840	5,592,840	
事業未収金	156,412,983	151,639,048	4,773,935	賞与引当金	31,624,000	32,758,000	△1,134,000
未収補助金	9,417,000	14,551,378	△5,134,378	固定負債	95,391,261	99,188,133	△3,796,872
立替金	501,407	817,936	△316,529	リース債務	13,018,645	18,611,485	△5,592,840
前払費用	525,432	525,432		退職給付引当金	82,372,616	80,576,648	1,795,968
固定資産	2,251,961,162	2,265,346,406	△13,385,244	負債の部合計	204,417,248	266,458,773	△62,041,525
基本財産	1,291,652,513	1,344,284,887	△52,632,374	純資産の部			
土地	254,351,671	254,351,671		基本金	927,203,251	927,203,251	
建物	2,201,323,261	2,201,836,451	△513,190	国庫補助金等特別積立金	516,153,518	546,531,075	△30,377,557
減価償却累計額 基本財産	△1,164,022,419	△1,111,903,235	△52,119,184	その他の積立金	51,500,000	64,621,932	△13,121,932
その他の固定資産	960,308,649	921,061,519	39,247,130	施設整備積立金	51,500,000	64,621,932	△13,121,932
建物	901,420,429	898,733,044	2,687,385	次期繰越活動増減差額	1,234,672,799	1,140,915,039	93,757,760
構築物	174,547,300	128,237,300	46,310,000	（うち当期活動増減差額）	80,635,828	69,793,651	10,842,177
機械及び装置	267,000	267,000					
車輌運搬具	2,046,500	3,471,490	△1,424,990				
器具及び備品	128,267,781	136,134,668	△7,866,887				
建設仮勘定	66,605,000		66,605,000				
有形リース資産	16,298,590	20,723,230	△4,424,640				
権利	79,838	79,838					
ソフトウェア	9,636,702	12,687,804	△3,051,102				
無形リース資産	2,725,800	3,894,000	△1,168,200				
投資有価証券	100,000,000	100,000,000					
退職給付引当資産	82,372,616	80,576,648	1,795,968				
施設整備等積立資産	51,500,000	64,621,932	△13,121,932				
長期前払費用		525,432	△525,432				
減価償却累計額 その他の固定資産	△575,458,907	△528,890,867	△46,568,040	純資産の部合計	2,729,529,568	2,679,271,297	50,258,271
資産の部合計	2,933,946,816	2,945,730,070	△11,783,254	負債及び純資産の部合計	2,933,946,816	2,945,730,070	△11,783,254

令和８年度　事業計画・重点目標

●Vision・Mission・Valueの浸透と人事制度の運用について

「利用者も職員も地域も一人ひとりの人生が大切にされ、みんなと共に成長できる社会の実現を目指します。」という青い鳥会のVisionを組織でより浸透させ、職員一人ひとりが責任を持って職務を行うことを目指します。Vision実現に向けて令和７年度に整備した新たな人事制度の運用を開始します。運用開始後、分析・見直し・修正を行うことで制度の定着を図り、職員一人ひとりの努力に対して適切に報いるとともに、個々の意向に沿った働き方を実現できる制度として確立します。

●虐待防止、権利擁護の取り組みの推進について

法人を利用する誰一人が同じではなく、強みや特性、障害状況が異なります。令和７年度に作成した、支援のおける「職員心得」に基づき、すべての利用者の大切にされるよう権利擁護の取り組みを確実に実施します。権利擁護の取り組みを推進により、「一人ひとりの生きがい、尊厳が守られ、安心した暮らしが送れます」というＶａｌｕｅの実現を目指します。

●ICT、DXの活用と人材戦略について

質が高く安定したサービス提供を行うために、人材確保や定着、人材育成やノウハウの継承等、人材戦略を推進します。

（人材確保・定着に向けて）

SNSを活用したPR広報活動の強化、大学訪問・インターンシップの実施、外国人労働者採用に向けての情報収集、抱え上げない介護推進事業所の取得、業務代替手当の導入、カスタマーハラスメント対策指針の策定と周知等を行う。

（人材育成・ノウハウの継承に向けて）

新人事制度による適切な評価と処遇の実施、次世代の幹部職員候補の育成、法人の歴史を継承するための若年層採用の推進と知識や技術継承の取り組みの実施等を行う。

●財務規律の強化と適切な事業運営について

拠点の管理者ごとに適切な事業運営を行い、適切かつ公正な資質管理のもと、拠点ごとの事業活動収支差額の黒字化を目指す。各事業所の独立性をより強化し、安定した運営の確立に取り組む。

●法人の中長期計画の作成について

現在置かれている法人の課題や地域全体の課題、法人の地域における役割を分析し、法人のVision・Mission・Valueに基づいた中長期計画を策定する。

●地域との連携の強化と公益的な取り組みについて

彦根学園祭、愛荘町川原事業所秋祭りの開催と地域交流の促進、障害者福祉の啓発を行う。彦根学園とグループホームたちばなにおいて、地域連携会議を継続して実施し、地域に開かれた施設を目指す。

Instagram

AOITORI_KAI

Instagram更新中です！

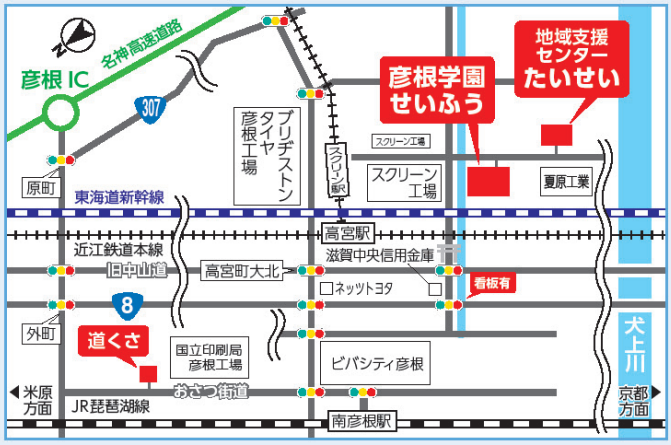
青い鳥会で職員が見ている光景や、イベントに合わせたホットな情報等をいち早くお届けしています。アカウント名は「aoitori_kai」、ネームタグはこちら。

最新情報を投稿していきますので、是非、みなさんフォロー＆コメントをお願いします!!

編集後記

ご愛読ありがとうございます。今号では、利用者が毎日を楽しく過ごせるよう、日々取り組んでいる活動についてご紹介しました。SNSでの情報発信やパンフレット作成などを通して、青い鳥会の魅力や日々の様子を、少しでも多くの方に知って頂けたら嬉しく思います。これからも、一人一人の思いに寄り添いながら、安心して楽しく過ごせる毎日を大切にしていきたいと思います。今後とも、温かいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

社会福祉法人 青い鳥会が行う事業





滋賀県彦根市高宮町2671番地

□法人事務局（彦根学園内）

◎盲重複障害者支援施設 彦根学園
生活介護・施設入所支援・短期入所（児者）・日中一時支援

滋賀県彦根市高宮町2672番地

◎重症心身障害者通園施設 せいふう
生活介護・短期入所・日中一時支援

滋賀県彦根市高宮町2690番地２

□地域生活支援センター たいせい

◎グループホームたちばなE/W
共同生活援助・短期入所

◎相談支援事業所 てんしん
指定特定相談支援・障害児相談支援

滋賀県彦根市岡町30番地２

◎日中一時支援事業所 道くさ
日中一時支援

滋賀県愛知郡愛荘町川原702番地

□愛荘町川原事業所

◎生活介護事業所 すら～ぶ
生活介護

◎日中一時支援事業所 か～む
日中一時支援

発行

社会福祉法人青い鳥会　彦根学園　〒522-0201滋賀県彦根市高宮町2671
【TEL】0749-22-2266　【FAX】0749-22-9767　【e-mail 】aoitori@hikogaku.com
印刷:近江印刷（株）